

令和4年度第1回唐津市行政改革推進会議 会議概要

(令和5年3月31日開催)

1 議題と主な意見

(1) 行政評価について

- 一昨年度の数値で行政評価を行うのは相当なタイムラグがあり、一般企業と違いすぎて驚いた。せめて年度が終わる前にある程度の評価をすべきである。
- 第2次唐津市総合計画に数値目標として様々な指標があるが、市がどんなに頑張っても市民がやらないと達成できない指標があるので、市民が参加する会議を開いて現状を報告するだけでも効果が上がると思う。

(2) 公共施設の使用料改正について

- 算定方法の明確化について、使用料は維持運営管理費×施設利用者の負担割合で算出するとあるが、施設によっては維持運営管理費を市民は見ることができない。値上がりに不満を持つ市民がいた場合に見せられる状態にしておくべきだ。
- 使用料の値上がりで、利用者がどれだけ変動するか、採算がどれだけ変動するかを次回の会議で示してほしい。
- 民間の施設とは違うので、あまりにも値上がりするのは困るが、利用者の公平を考慮して、利用する人としらない人にあまり差があってはいけないという説明は納得できる。
- 適正価格になった施設をどれだけの人が利用するのかが、次の議題の公共施設再編に繋がると思う。

(3) 公共施設再編の取組状況について

- 長年の課題である火葬場はまだ再編しないのか。福岡市ですら油山の1ヵ所のみであり、唐津市は多すぎる。地域住民の理解を100%得るとするのは無理なことである。
- 公共施設の合併や廃止を決める会議に地域を代表して参加する者は、心の中では市の意見に賛成の場合もあるが、立場上、反対としか言えない。合意を迫って地域住民に責任を転嫁するのではなく、市が現状を判断し、ある程度の努力や誠意を見せれば、市で決定してよいと思う。
- 特に市の周辺部は人口減少や過疎化が進み、民間企業などは営業所を撤廃しているところもある。一方で行政には人口減少や過疎化対策という側面もあるため、なかなか難しい問題である。
- 公共施設はいったん市の中心部にある程度集約し、財政を健全化させ、それから徐々に周辺部に人が増えていくというのが正しい流れだと思う。

(4) DX推進の取組状況について

- 2億6,000万円の予算が投入されるので、それ以上の経費削減効果が出るということを期待したい。
- 公共施設予約システムは是非とも早期に導入してほしい。施設使用料が上がっても予約が簡易になれば、利用者は増えると思う。
- 移動型行政サービスや電子申請システムは、高齢者や若い世代の市民にはありがたい。
- 電子決裁、業務用チャットツール、会議用モニターの導入も確実に実行してほしい。

(5) 令和5年度に向けた取組みについて

- 行政評価見直し事業について、プロポーザルを受けるには唐津市としてもそれな

りの柱を持っていないと選定ができない。

- 他市の入札監視委員会の事例であるが、委員が気になる契約をピックアップして担当課からの説明を受けるが、この事業がこれだけの予算規模でやる意味は何かを説明するとなると、評価すると言わなくてもそれが自己評価になり、その契約方法よりもこちらの方が良いなどの意見が出ることで、常時の行政改革に繋がっている。

(6) その他

- 唐津市行政改革推進会議に諮るような検討課題がないときは、市が現在行っている事業の報告だけでもやれば市民と市役所がともに唐津市をつくっているということを実感するチャンスになり、協力しようという意識が出てくると思う。
- 会議の回数を増やすことは無駄ではないので、もっと上手に市民を活用すべきだ。

2 今後の対応

会議の結果は市のホームページで公表するとともに、関係各課と共有し、今後の取り組みの参考とする。